

令和6年3月18日

担当課	長崎県文化振興・世界遺産課
内線	2768
直通電話	095-895-2768
担当者	齋藤・佐藤

絵画「ブロンホアの家族たちとビーマン夫人」の資料購入及び一般公開について

県では、長崎歴史文化博物館における収蔵資料として、下記のとおり資料購入を行い、同博物館の展覧会において一般公開することとなりましたので、お知らせします。

記

- 1 購入資料名 絵画「ブロンホアの家族たちとビーマン夫人」
※上記資料の詳細については別紙のとおり
- 2 購入元 長崎県外の古美術画廊
- 3 購入時期 令和6年2月
- 4 一般公開 日時：3月19日（火）～4月21日（日）
※4月1日（月）は休館日

場 所：長崎歴史文化博物館2階
常設展示室内・特集展示室（歴史文化展示ゾーン）
※ 特集展示 「新収蔵品展」にて展示

観覧料：常設展観覧料でご覧いただけます。
（大人630円、小中高校生310円）
※ 長崎県内の小中学生は無料

購入資料 「ブロンホフの家族たちとビールマン夫人」

作成年代：文化14年(1817)～文政5年(1822)
作者：不詳 材質・形状：絹本著色、額装
サイズ：絵画部分53.0×64.5cm 全体69.5×81.5cm

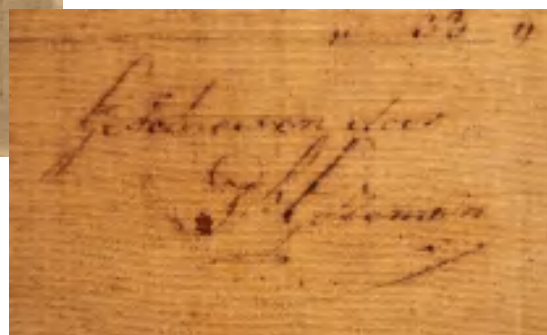
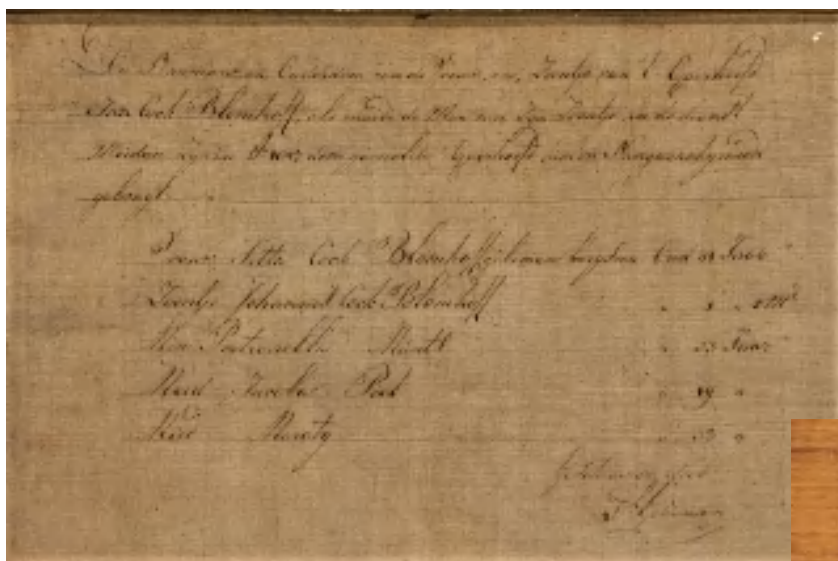
作品解説：1817年(文化14)、ヤン・コック・ブロンホフ(*Blomhoff, Jan Cock* 1779-1823)がオランダ商館長として長崎に着任の際、同伴した妻子と乳母、召使い及び総舵手ビールマンの妻ヤコウバパイキの姿を描いた群像肖像画。結局は帰国させられたが、鎖国下19世紀初頭の長崎・出島に外国人女性たちが上陸したことは日蘭交流史のなかでも衝撃的な事件だった。彼女らを描いた「ブロンホフ家族図」は国内外に複数存在するが、本画は、下記のような数々の特筆すべき点があり、新発見資料として注目される。

- 特筆点：① ブロンホフ夫人ティティア(右端の夫人)がピアノ(スクエアピアノ)を弾く図は確認されているが、着色の上、精巧に描かれた作品として確認できるものは現在、本画のみ。
- ② ヤコウバパイキ(中央 緑の服)を描いたと左上の書入れから確実に特定できるものは本作のほか確認されていない。
- ③ 本画の作成時期が渡来同時期の数年間に特定できる。本画 左上の書入れの筆者は、1808年(文化5)のフェートン号事件でイギリス側に人質とされたオランダ商館員ディルク・ホーゼマン(*Dirk Gozeman*)で、1817年当時、出島に勤務、1822年に日本を離れている。他の家族図はここまでの特定ができない。



(別紙2)

《ブロンホフの家族たちとビールマン婦人》左上 オランダ語の書入れについて



商館長ヤン・コック・ブロンホフの妻と息子、さらに息子の乳母と女中の氏名と年齢、
1817年に上記商館長によってここ長崎へ連れて来られた—

妻 Titta[ママ] Cock Blomhoff、旧姓 bergsma	31 歳
息子 Johannes Cock Blomhoff	1 歳 5 ヶ月
乳母 Pretronella[ママ] Munts	23 歳
女中 Jacoba Piek	19 歳
女中 Maraty	33 歳

[以上は、] D^k Gozeman
によって書かれた